

事業報告書

〔自 平成 29(2017)年 4 月 1 日 至 平成 30(2018)年 3 月 31 日〕

1. 事業概要

平成 29(2017)年度も、これまで同様「人間のより一層の幸せを目指し、将来の福祉社会の発展に資する」ことを目的に、生活・自然環境、社会福祉、教育文化等の現代社会の諸課題に対して正面から向き合う研究や事業活動に対して助成を行うとともに、自主事業として、多くの報告会・ワークショップを開催したほか、NPOの組織基盤強化を図ることを目的として前年度に続いてトヨタ自動車のマネジメントノウハウを学ぶ講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」を実施した。そして、これらの活動を財団広報誌「JOINT」や年次報告書などの刊行物の発行や財団ホームページにおいて積極的に発信することにより、社会の多様なステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図り、新たな社会課題の芽の発見や、その解決に向けた取り組みが生まれることを目指した。

具体的な内容は以下の通り。メインとなる3助成プログラム(研究・国際・国内)の助成規模を維持しつつ、東日本大震災対応分についてはイニシアティブプログラムの枠組みの中において、これまでの振り返りと評価を行った。

- (1)「研究助成」「国際助成」「国内助成」の3プログラムは、それぞれ例年の助成規模を維持。
- (2)イニシアティブプログラムにて、コミュニティ財団や地域ファンドの基盤整備、NPOや地域で活躍する若手の人材育成を支援したほか、平成 27(2015)年度に開催した「アジア非営利セクター国際会議」のフォローアップ助成も引き続き実施。
- (3)社会コミュニケーションプログラムの枠組みの中では、国内助成プログラムの成果発信(政策提言)を目的として行う「発信・提言助成」を新たに実施。
- (4)各公募プログラムと並行して、それぞれのプログラムの成果を発信する報告会・研究会を多数開催。また、国際助成プログラムの趣旨の一層の浸透を図るため、本年 1 月にフィリピン(バギオ)、2 月にタイ(バンコク)、3 月に日本(仙台)にて、過去の助成対象者と財団担当者として助成のポイントや活動の意義について集中的なディスカッションを行い、その成果をホームページ及び冊子にて発信(日本語・英語)。

<平成 29(2017)年度助成実績>

助成プログラム		応募件数	助成件数	助成金(千円)	予算(千円)
公 募	研究助成プログラム	845	31	100,000	100,000
	(共同)	452	18	83,700	80,000
	(個人)	393	13	16,300	20,000
公 募	国際助成プログラム	328	16	100,000	100,000
	国内助成プログラム	401	26	82,050	100,000
非 公 募	イニシアティブプログラム	—	8	52,860	45,000
	社会コミュニケーションプログラム	—	2	11,000	20,000
計			83	345,910	365,000

II. 助成内容

1. 研究助成プログラム

当年度も助成テーマを継続し、世界を俯瞰し未来を見通す広い視野から、これからの社会が直面する課題に向き合うための基本的な考え方や方法論を探究する、意欲的な共同研究及び個人研究のプロジェクトを募集した。公募の結果、国内外から多数の応募が集まり、応募総数は845件（前年度比3.8%減）となった。選考委員会では、主に若手研究者による意欲的なプロジェクトの提案が高く評価され、特に共同研究のプロジェクトに高い評価が付けられた。

前年度同様、助成対象者による研究会・報告会（ワークショップ）を開催し、助成の成果の発信および助成対象者に対する動機付けの場とした。東京と福岡の会場で合わせて100名程度の参加者があり、本プログラムの趣旨について理解を広げる良い機会となった。

その他、優れた成果をあげた助成対象プロジェクトに対しては、社会コミュニケーションプログラムの助成枠を通じ、成果を社会に発信・普及させるための支援を行った。

＜カテゴリーA＞ 共同研究助成

＜カテゴリーB＞ 個人研究助成

(1) テーマ： 「社会の新たな価値の創出をめざして」

(2) 公募期間： 2017年5月1日～9月8日

(3) 助成実績

上段：2017年度

(下段：2016年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
845 (878)	31 (40)	100,000 (100,000)	100,000 (100,000)	3.7% (4.6%)

上段：2017年度

(下段：2016年度)

《2017年度の内訳》

	応募件数	助成件数	採択率
共同研究助成<A>	452件 (429件)	18件 (17件)	4.0% (4.0%)
個人研究助成	393件 (449件)	13件 (23件)	3.3% (5.1%)
合計	845件 (878件)	31件 (40件)	3.7% (4.6%)

2. 国際助成プログラム

当年度も、2014年度以来の基本テーマ「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」を継続した。特に「2国以上の地域実践者による国を越えた現場訪問・相互交流の実施」に重点を置き、多国間の「学びあい」とそれにもとづく成果発信を重視した。また、対象地域は、日本を含む東アジアと東南アジア合わせて18の国・地域とした。

具体的な助成領域としては、2016年度にリニューアルを行った(A)多世代・多文化を包摂する地域コミュニティ、(B)新しい文化の創造、(C)オープン領域の3領域を踏襲した。結果、プログラム趣旨の浸透を反映し、アジア各国から前年度の1.5倍超となる328件の応募を得、16件を採

択した。

一方で、海外からの応募案件を中心に、プログラム趣旨が必ずしも理解されていないと思われる企画も多かったことから、2018年1月にフィリピン（バギオ）、2月にタイ（バンコク）、3月に日本（仙台）において、過去の助成対象者と財団担当者として助成のポイントや活動の意義について集中的なディスカッションを行い、その成果をホームページ及び冊子にて発信（日本語・英語）することで、国際助成プログラムの趣旨の一層の浸透を図った。

この他に、香港でフィランソロピーの研究及びアドバイザーサービスを提供する Centre for Asian Philanthropy and Society (CAPS) によるアジア 15ヶ国・地域での公益活動に関する Doing Good Index への調査協力を行ったほか、パリの OECD において開催された開発とフィランソロピーに関する会議に日本の財団として唯一出席し、日本及び東アジア全般の状況についての報告も行った。

- (1) テーマ： 「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」
- (2) サブテーマ： (A) 多世代・多文化を包摂する地域コミュニティ
(B) 新しい文化の創造：これからのアジアの共通基盤の構築
(C) オープン領域
- (3) 対象国： 東アジア・東南アジアの国・地域
- (4) 公募期間： 2017年3月24日～6月20日
- (3) 助成実績

上段：2017年度
(下段：2016年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
328 (211)	16 (18)	100,000 (100,000)	100,000 (100,000)	4.9% (8.5%)

3. 国内助成プログラム

当年度も、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の「担い手育成」「仕事づくり」を支えるべく、引き続き「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた仕事づくりを通じて」を基本テーマとし、「しらべる助成」「そだてる助成」の公募を実施した。

さらに、過去の助成成果に基づき社会の仕組みや価値観を変えることを目的として実施する政策提言・社会提案の重要性を認識し、過去の助成先に限定して「発信提言助成」の枠組みも新設し助成を行った（社会コミュニケーションプログラムにて対応）。

この他に、非公募の助成プログラム枠であるイニシアティブプログラムを通じて、非営利セクター全体の基盤強化に資する取り組みについても支援を行った。具体的には、市民ファンド/コミュニティ財団の基盤強化、NPOの評価人材育成、NPO会計基準の普及に関するプロジェクトへの助成を実施した。

助成以外の活動として、NPOの基盤強化を目的としてトヨタ自動車のマネジメントノウハウを学んでいただく講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」を前年度に引き続き実施した。

- 「しらべる助成」 日本全国を対象とし、地域課題の発掘やその解決のために必要な調査、及び事業戦略の立案など本格的に事業を実施する前の調査を目的としたプロジェクトへの助成

「そだてる助成」 日本全国を対象とし、地域課題解決に向けた事業の立ち上げ、実施、拡大並びにそうした事業の担い手となる人材を育てることを目的としたプロジェクトへの助成

「発信・提言助成」 プロジェクトの成果を社会に広く発信し、既存の社会の仕組みや価値観を(社会コミュニケーションプログラム) 問い直すとともに、それらを変えていくことを目指す政策提言・社会提案への助成

(1)テーマ： 「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた仕事づくりを通じて」

(2)公募期間： 2017年9月1日～9月29日

(3)助成実績 (しらべる助成・そだてる助成)

上段：2017年度

(下段：2016年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
401 (439)	26 (26)	82,050 (85,200)	100,000 (100,000)	6.5% (5.9%)

《2017年度の内訳》

	応募件数	助成件数	助成金額(千円)	採択率
しらべる助成	171件	16件	16,000	9.4%
そだてる助成	230件	10件	66,050	4.3%
合計	401件	26件	82,050	6.5%
(社会コミュニケーションプログラム) 発信・提言助成	3件	1件	5,000	33.3%

4. イニシアティブプログラム

当年度も、NPOやコミュニティ財団の基盤強化に関する事業への助成を行うとともに(5件・3,286万円)、公益法人制度改革が助成財団に及ぼした影響に関する調査・研究事業(1件・200万円)への支援を行うなど、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトへの助成を行った。

また2015年度に開催した「アジア非営利セクター国際会議」のフォローアップとして、同会議に参加した団体による、アジア各国の非営利セクターの現況(制度・データ・課題等)に関する共同研究プロジェクト(1件・800万円)への2年目の助成も行った。

東日本大震災特定課題としては、2014年度より3年間続けてきたコミュニティ形成支援プログラムは一定の役割を終えたとの判断から、振り返り・評価を行うプロジェクトとして、東日本大震災の復興過程において必要となる公営住宅にかかるコミュニティ形成に関するベストプラクティス調査事業(1件・1,000万円)への助成を行った。

○助成実績

上段：2017年度

(下段：2016年度)

助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
8 (6)	52,860 (32,800)	45,000 (40,000)

5. 社会コミュニケーションプログラム

本年度も引き続き、全プログラムを対象に助成プロジェクトの成果や方法などを社会に発信・普及させることを目的に助成を行った。助成実績としては、研究助成プログラムにて支援したプロジェクトの普及・実践活動として、琉球諸語統一的表記法フォント開発と電子的な利用の普及プロジェクト(1件・600万円)への助成を行うとともに、国内助成プログラムにて支援したプロジェクトの「発信・提言助成」として、内陸部からの海ごみ発生抑制に関する政策提言プロジェクト(1件・500万円)に対し助成を行った。

○助成実績

上段：2017年度
(下段：2016年度)

助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
2	11,000	20,000
(2)	(9,690)	(10,000)

III. その他の活動

1. 広報活動

プログラム部門と連携した座談会等を企画し、その成果を広報誌(JOINT)誌面やウェブサイトで発信するなどプログラム部門との連携を強化した。併せて年次報告書(和・英)も発行した。

	刊行日	特集タイトル	発行部数
第24号	2017年4月14日	多文化社会へ向けて	5,000
第25号	2017年10月23日	「地域資源」の活かし方	
第26号	2018年1月25日	文化としての「農」	

2. 報告会の開催

助成対象者間のネットワーク作り、研究や事業に関する情報交換、助成プロジェクトの成果向上などを目的に報告会を開催した。開催概要は以下のとおり。

開催日	タイトル	開催地	参加者
2017年4月13日	国内助成プログラム2016年度助成対象者調査設計入門研修	東京	助成対象者など約30名
2017年4月15日	研究助成プログラム助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約60名
2017年4月15日	国内助成プログラム2015年度助成対象者中間報告会	東京	助成対象者など約30名
2017年5月21日	研究助成プログラム助成対象者ワークショップ	福岡	助成対象者など約30名超
2017年9月22日	東日本大震災特定課題2016年度対象者中間報告会	陸前高田	助成対象者・行政関係者など約50名
2017年10月24日	国際助成プログラム2017年度助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約40名
2018年1月24日 ～27日	国際助成プログラム助成対象者の対話プログラムーアジア井戸端ダイアログ	フィリピン	助成対象者・など約10名
2018年2月26日 ～27日	国際助成プログラム助成対象者の対話プログラムーアジア井戸端ダイアログ	タイ	助成対象者など約10名
2018年3月23日 ～25日	国際助成プログラム助成対象者の対話プログラムーアジア井戸端ダイアログ	仙台	助成対象者・選考委員など約15名

NPOの組織基盤強化を図ることを目的として前年度より実施している、トヨタ自動車のマネジメントノウハウを学ぶ講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」の開催概要は以下のとおり。

	開催日	開催地	参加者
第1回	2017年5月18日	名古屋	18団体・24名
第2回	2017年5月19日		
第3回	2017年6月15日		
第4回	2017年7月13日		
第5回	2017年8月3日		
最終報告会	2017年11月28日		

IV. 会議実績

理 事 会

第 35 回理事会〔平成 29 年 6 月 5 日(月)〕

1. 平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
2. 平成 29 年度イニシアティブプログラム助成対象の決定について
3. 常務理事退任・新任役員候補(案)について
4. 第 15 回評議員会の日時・場所・目的である事項について

第 36 回理事会〔平成 29 年 6 月 26 日(月)〕

1. 業務執行理事の選任の件
2. 常務理事の選任の件
3. 常務理事の役員報酬額の件

第 37 回理事会〔平成 29 年 9 月 21 日(木)〕

1. 平成 29 年度国際助成プログラム助成対象の決定について
2. 平成 29 年度イニシアティブプログラム助成対象の決定について
3. 平成 29 年度社会コミュニケーションプログラム助成対象の決定について
4. イニシアティブプログラム等選考委員の選任について
5. 50 周年記念事業積立金(特定費用準備資金)について
6. 職員関係規程の一部改訂改定について

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について
2. 国際助成プログラム助成金贈呈式について

第 38 回理事会(書面)〔平成 30 年 3 月 6 日(火)〕

1. 第 16 回評議員会の日時・場所・目的である事項について
2. 定款の一部改定について

第 39 回理事会〔平成 30 年 3 月 22 日(木)〕

1. 平成 29 年度研究助成プログラム助成対象の決定について
2. 平成 29 年度国内助成プログラム「一般枠」助成対象の決定について
3. 平成 29 年度イニシアティブプログラム助成対象の決定について
4. 平成 29 年度社会コミュニケーションプログラム助成対象の決定について
5. 役員及び評議員の報酬及び費用に関する規程の一部改定について
6. 選考委員の報酬及び費用に関する規程・役員等旅費規程の一部改定について
7. 平成 30 年度(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)事業計画書(案)及び収支予算書等(案)について

8. 選考委員の選任について

(国内助成プログラム・研究助成プログラム・国際助成プログラム)

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について
2. 評議員選定委員会開催について
3. 研究助成・国内助成プログラム助成金贈呈式について

評議員会

第15回評議員会〔平成29年6月26日(月)〕

1. 平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
2. 役員選任(交替)の件

第16回評議員会〔平成30年3月22日(木)〕

1. 定款の一部改定について
2. 役員及び評議員の報酬及び費用に関する規程の一部改定について

報告事項

1. 平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)事業計画及び収支予算書等について
2. 評議員選定委員会開催について
3. 研究助成・国内助成プログラム助成金贈呈式について

研究助成プログラム選考委員会

選考準備会 平成29年10月30日(月)
選考委員会 平成30年1月23日(火)

国際助成プログラム選考委員会

選考準備会 平成29年6月30日(金)
選考委員会 平成29年8月3日(木)

国内助成プログラム選考委員会

選考委員会

平成 30 年 2 月 6 日 (火)

イニシアティブプログラム等選考委員会

第 1 回 選考委員会

平成 29 年 5 月 24 日 (水)

第 2 回 選考委員会

平成 29 年 8 月 31 日 (木)

第 3 回 選考委員会

平成 30 年 3 月 6 日 (火)

助成金贈呈式

研究助成・国内助成プログラム

平成 29 年 4 月 14 日 (金)

(於ハイアットリージェンシー東京)

国際助成プログラム

平成 29 年 10 月 23 日 (月)

(於ハイアットリージェンシー東京)

V. 附属明細書

平成 29(2017)年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。